

青少年のインターネット・リテラシー指標(ILAS)等調査の概要

[ILAS (アイラス) : Internet Literacy Assessment indicator for Students]

- 総務省では、インターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状を可視化するため、これらの能力を数値化するためのテストを指標として開発。2012年度以降、毎年、全国の高校生（1年生相当）を対象に、インターネットの利用状況に関するアンケートと併せて実施し、結果を公表。

調査方法の概要

- ・ 調査対象：高校1年生
- ・ テスト実施形式：CBT (Computer Based Testing) 形式…パソコンルーム等でwebブラウザを使用して実施。
 - * インターネット環境が無い等、CBTの実施が困難な場合、紙での実施も可能。
- ・ 所要時間：約40分（事前アンケート約6分+テスト約30分+事後アンケート約4分）

2020年度調査結果のポイント等

（調査対象：74校、12,499名）

リテラシー（正答率）とインターネットの利用状況（スマホの利用時間、フィルタリング利用の有無等）を掛け合わせたクロス集計等を盛り込むなど、ILASの特徴を活かした調査結果をとりまとめ、2021年4月に公表。

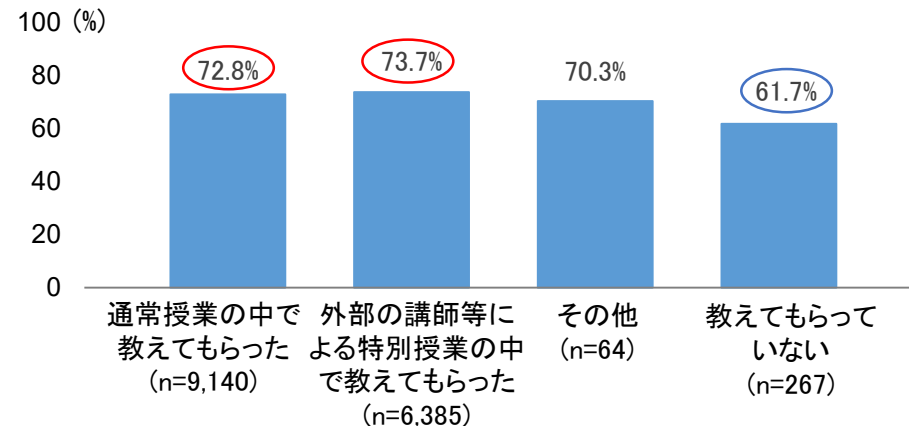
- 全体の正答率（72.0%）は、過去5年間の平均（68.8%）を上回っている。
- 項目別に5年前と比較すると、いずれの項目においても、過去5年間の平均を上回っており、「不適正取引リスク」「セキュリティリスク」の上昇幅が大きい。

- ・ 不適正取引リスク（フィッシング、ネット上の売買等）
57.1%（2015年度）→61.9%（2020年度） [4.8ポイント上昇]
- ・ セキュリティリスク（ID・パスワード、ウイルス等）
65.3%（2015年度）→69.9%（2020年度） [4.6ポイント上昇]

学校の授業状況と正答率（クロス分析）

（スマートフォン保有者ベース）

学校でインターネット利用上の危険について教わっている高校生（正答率：約7割）の方が、教えてもらっていない高校生（正答率：約6割）に比べ正答率が1割以上高い。



* 本調査結果については「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース」で報告済。

2021年度ILAS等調査について

- ILASテストの復習を通じたリテラシー向上等にも効果的に活用いただけるよう、テスト問題送付（案内）時に、テスト問題の解説、昨年度の公表結果や昨年度の全国平均点データ等を併せてお送りするなど、昨年度と同様に実施。
- 学校側の負担を軽減するために、今年度も所要時間を従来の約50分から約40分に短縮した上で、10月～12月（想定）にテストを実施することで調査期間に余裕を持たせることとする。
- 今年度からの新たな試みとして、調査実施後にテストの内容に関する学習に活用できるような補助教材を作成し、フィードバック時に送付予定。将来的な調査の参考とするため、教材について実施校の教職員の方へ簡単なアンケートを予定。

2021年度ILAS等調査の概要

1. 調査対象

高校1年生

2. テスト実施形式

CBT (Computer Based Testing) 形式 … パソコンルーム等でwebブラウザを使用して実施。

*インターネット環境が無い等、CBTの実施が困難な場合、紙での実施も可能。

3. 所要時間

約40分

（事前事後アンケート 計約10分、テスト約30分）

4. スケジュール

・10月 調査実施者より委託された事業者（株式会社日本リサーチセンター）から、テストの詳細について御案内

・10月末頃～12月（想定） テスト実施

→テスト実施後、株式会社日本リサーチセンターから年度内にテスト結果（学校別の速報版）・補助教材をお送りするほか、全学校の集計が終了後、全国版の分析結果についてもお送りする予定。

5. 注意事項

実施可能数には限りがありますので、希望される高等学校が多数の場合には実施できない場合がございます（先着順）。実施することができなかった高等学校に対しては、電子データにて補助教材を配布させていただきます。